超訳「式三番」

役者の皆さん

翁（白式尉…しろきじょう）
千歳（せんざい）
三番叟（黒式尉…くろきじょう）
笛（ふえ）
鼓（つづみ）
大鼓（おおかわ）
面捌（めんさばき）
地謡（じうたい）

まず初めに面捌が舞台を清めるための塩をまく。塩がまかれた舞台は聖地となり神が降りてくる場所となる。
ヲシヤリウロ、ヲシヤリウロ、ヲシヤリウロ、ヒヤロイと神秘的に笛が吹かれ、鼓がなるのは神を招く音楽である。

一　序（翁）

四句神哥

翁　宝はどれもこれも輝いて輝いている
地　寿命が長くてとてもめでたい
　楽しいなあ
翁　ここは千年もいつまでもいつまでも
　栄える場所だよ。
地　私達もわが君にいつまでもお仕えしよう
翁　わが君も鶴や亀のように千年も万年も
地　心のままに長生きして幸せでいられる
　んだ

……とうとうたらり…の歌で神様がまず翁の持っている扇に降りる。面をつけて翁は神様に変身する。

（露払い）千歳の舞

千歳　おー　日照りなのに滝の音がどうど
　うと大きな音をたてて流れているぞ
地　　滝はどうどうといつも流れている

ワカ（千歳）

千歳　滝はどうどうといつも流れている
　天女が羽衣で岩をなでても岩がすり
　減らないように変わらないんだ
　日照りになっても滝の音がどうどう
　と大きな音をたてて流れている
地　　滝はどうどうといつも流れている

……「四方がため」、「袖がらみ」を踊り滝の水音のようにどんどんと踏み締めて舞う。

二　對面（たいめん）

翁　ちょっと離れて座ってたけど
地　少し離れているなあ
翁　いままで座ってたけど
地　そっちへ行ってみたら

……白式尉、黒式尉は立ち上がり軽く挨拶をする。向こうのお爺さん（黒式尉）はどっかに消えてしまう。

三　ワカ

翁　むかしむかし神様がいた時代からここ
　はめでたい所でずっと祝ってきたし
地　そうだよ　そうだよ
翁　千年も生きている鶴が萬歳楽を歌って
　いる　こいつぁめでたい
地　そうだとも
翁　池に住む一万年も生きている亀は甲羅
　に「天地人」の三極が現れた
　これもとってもめでたいな
地　滝の水はひんやりとして朝日を浴びて
　輝いているし　水際の砂はさらさらと
　して月の光りに鮮やかに光ってる
翁　まぁ、なんときれいですがすがしい
　じゃないか
地　天下は平和で国は穏やかだなぁ
翁　そうだ　これを今日のお祝いの祈祷の
　歌にしよう

四　翁舞（おきなのまい）

翁　あれー　あれはどこのお爺さんだった
　んだろう
地　あれはどこのお爺さんだろう
翁　いったいどこのお爺さんだろう
　まあいいか

……お爺さんのこと考えるのをやめて踏み鎮めの舞いを舞う。鼓方が急に激しく打ちはじめ踏舞を引き出す雰囲気を作る。翁は「きよめ」、「つっつきのの字」、「反閇」、「からふみ」、「翁走り」、「面振り」と舞う。舞いそのものが祈祷である。

五　萬歳楽(まんざいらく)

……めでたい舞

翁　これは千年も万年も栄えるお祝いに踊るんだから萬歳楽を一回踊っとこう

地　いやあ萬歳楽　萬歳楽

翁　いやあ萬歳楽　萬歳

地　いやあ萬歳楽　萬歳楽

……鼓にあわせて扇を上下にあおぐ、囃子の「やあ」の掛声で両手に持った扇を頭上に捧げる。これで翁に乗り移った神様は天に戻る。翁は翁帰りの摺り足で退場する。

三番叟

一　揉の段(もみのだん)

黒式尉　ほほう
やあめでたい　とてもめでたい
うれしいじゃないか
このめでたさはよそにやりたくないほどだなぁ

……「足固め」、「袖がらみ」、「七つ跳」、「五つ拍子」と気が狂ったように踊る。

突然、「エイー」と声がでる。神様が三番叟に乗り移ったのである。神となった三番叟は黒い面(黒尉面)をつける。

二　対面狂言問答(たいめんきょうげんもんどう)

黒式尉　あーめでたいな　何でもよく知ってるあどさんにちょっと会い行こう
千歳　ちょうど来たよ
黒式尉　えー　誰が来たの
千歳　あどさんと呼んだから何でもよ知ってるあどさん役で出てきたんだよ
黒式尉　そうだったのか
千歳　今日のお祝いで千年も万年もここが栄えるように舞ってくんないかなぁ
顔の黒いあなた
黒式尉　まあねぇ　あんたがおっしゃるように　この顔の黒い私は千年も万年もここが栄えるように三番叟を踊るのは簡単だけどね
千歳　そんならさー
黒式尉　まずあどさんはさっきいたお座敷に戻ってくんないかなぁ
千歳　尉さんが踊りを踊ってくれるならお座敷に戻ってもいいよ
黒式尉　そんなこと言わないでさぁ
千歳　まず尉さんの踊りを見てそれからお座敷に戻ろうじゃないの
黒式尉　やだよ
戻ってからじゃないと踊らないよ
千歳　そんなこと言わないで一回舞ってよ
黒式尉　そっちこそ戻ってよ
千歳　あーぁ　もったいぶっちゃって
そんなら鈴をあげるからさあ
黒式尉　そっちこそもったいぶってるじゃないの

……と出された鈴をつい受け取って、続けて踊りはじめてしまう。

鈴は神招きをするために身につけるものである。

三　鈴の段(すずのだん)

鈴を天地四方に響かせ空や四方の邪気を祓い良い精霊を振い立たせる。どんどんと踏んで地の悪霊を押さえる。

「勇み足」、「種まき」、「千鳥足」「髭すり」を舞って丁寧に何度も何度もくりかえし隅々までくまなく踏む。翁が踏まかった隅々まで丹念に踏む。

最後に「イーイ」の声で三番叟についた神は離れる。

平成十二年九月二十四日

http://www.avis.ne.jp/~kitayatu/sanba/